

会 議 録				
令和 7 年度第 1 回 生活支援事業協議体		日 時	令和 7 年 6 月 3 日（火） 1 4 時 0 0 分～1 6 時 0 0 分	場 所
		小金井市 前原暫定集会施設 1 階 A 会議室		
事務局		小金井市福祉保健部介護福祉課		
出席者	委 員	高良委員長（法政大学） 田部井副委員長（社会福祉協議会） 清水委員（介護事業者連絡会） 鈴木委員（民生委員児童委員協議会） 千田委員（地域活動代表者） 刃田委員（地域活動代表者） 鈴木委員（町会・自治会） 第 2 層コーディネーター 松村氏（小金井きた地域包括支援センター） 中島氏（小金井ひがし地域包括支援センター） 河合氏（小金井みなみ地域包括支援センター） 久野氏（小金井にし地域包括支援センター）		
	事務局	第 1 層コーディネーター 菊地原氏（小金井市 介護福祉課） 磯端氏、田村氏、木津氏（介護福祉課）		
傍聴の可否		◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 委員紹介				
(2) 委員長・副委員長選出				
(3) 報告事項				
① 生活支援事業年間スケジュール				
② 令和 6 年度第 8 回から第 1 1 回生活支援連絡会報告				
③ 生活支援コーディネーター活動報告（1 2 月分～3 月分）				
④ 令和 6 年度各地域包括支援センター活動報告				
⑤ 令和 7 年度各地域包括支援センター活動目標				
(4) 検討事項				
地域課題について				
3 その他				
次回協議体の開催予定				
4 閉会				
1 開会				
2 議題				
(1) 委員紹介				
(2) 委員長・副委員長選出				

(3) 報告事項

- ① 生活支援事業年間スケジュール
- ② 令和6年度第8回から第11回生活支援連絡会報告
- ③ 生活支援コーディネーター活動報告（12月分～3月分）
- ④ 令和6年度各地域包括支援センター活動報告
- ⑤ 令和7年度各地域包括支援センター活動目標

「①生活支援事業年間スケジュール」について
事務局より資料を基に説明。

昨年度活用していた東京都スマホ啓発事業は、市が用意する会場にスマホの講師を派遣し、色々な高齢者の相談に対応する事業だったが、令和7年度からは事業を行う運営費に対して1/2の補助金を出す形に変わり、補助金の支給する条件として、もう既に補助を受けていないこととあり、当事業は既に国や都の補助を一部受けているため、補助金の対象ではなく、活用できる事業がなくなった事。

スマホサポーターの養成講座の受講者の活動状況を踏まえ、スマホを通じた交流の場を作るにあたり、スマホサポーター以外のスマホの機能に詳しい方が地域に多くいるので、そういう方たちにも呼びかけて、高齢者に積極的に教えてもらえるように協力いただくことで、少しでもスマホサポーターの協力者を増やすことを併せてやっていく必要がある。また、スマホサポーター養成講座の周知について再度検討が必要。

「②令和6年度第8回から第11回生活支援連絡会報告」及び「③生活支援コーディネーター活動報告」について
資料を基に事務局より説明後特に質問はなし。

「④令和6年度各地域包括支援センター活動報告」及び「⑤令和7年度各地域包括支援センター活動目標」について

(高良委員長)

それぞれの担当者方から説明を頂きたい。

まずはきた包括からお願いしたい。

(松村委員)

令和7年度の活動目標について。

重要な課題として、地域とのつながりがなく孤立したまま困難に直面する高齢者が増えていることや、情報不足から起こる困りごとへの備えや、いざというときの備えが十分にできていないことを地域課題として上げている。幾ら情報提供しても、もう動けなくなってから考える方が増えてきた。

その一方で災害が相次ぎメディアでも盛んに災害への備えについての啓発がなされるようになり、災害時の共助に備えて町会・自治会活動に関心を持つ現役世代が少しずつ増えている。

次に、特に成果を上げている2層協議体や協議体、本当に活動継続に関して困っている、相談したいといった団体への対応を一生懸命やっていきたい。

あと介護・医療との連携に意欲的な現役世代や元気なシニア層との連携により力を入れたい。

(高良委員長)

やはり包括が全てをやろうとすることはよくない。特にきた包括の状況を踏まえて、

早めに対応していくことで元気な高齢者と連携して活動をしていくのは1つの戦略だと思うし、そういった中でSNSの活用もよいと感じる。

この後、皆様方に伺うが、緊急対応や難しい事例が増えているのは全国的なことで、そういう状況への対応と地域づくりとの連動をどうやっていくかが鍵になる。

では、いまの報告に対して質問や意見等があればお願いしたい。

また、災害はやはり1つのキーワードで、ある程度若い方も関心がある。

(松村委員)

梶野町会が自主防災会を立ち上げ、さらに第三小学校避難所運営協議会の設立に取り組み、恐らくその影響だろうと言われているが、少しずつ新しい町会加入者が増えてきている。

またこの春、緑町第四町会の総会に招ねかれたが、若い方が参加しており、皆さん防災に関心がある方だった。やはり防災は世代を超えて連携できるテーマだと思った。

(高良委員長)

他に何か質問や意見があればお願いしたい。よろしいか。

それでは、続いてみなみ包括をお願いしたい。

(河合委員)

令和7年度の活動について資料4を御覧いただきたい。

一つ目として、担い手不足へのアプローチとして、地域住民のことを把握している民生委員や自治会の方々の力を借りて、積極的に情報交換をしながら地域活動の新しい参加者や担い手の発掘につなげたい。

次に、通いの場へ向けた情報提供・後方支援について、やはり担い手不足で、地域活動の参加者達から、参加はしたいがリーダーにはなりたくないという声がある。そこで参加者のニーズ等を把握し、適宜活動内容の提案や紹介をして、必要であれば調整の手伝いをするすることで、リーダーだからといって全てをやらずとも協力者がいるというアピールをして、リーダーのイメージを少しずつ払拭していきたい。

最後に地域活動団体の情報について、包括の総合相談等で対応する際に、応援ブックやマップを参考に案内をするが、やはり最新の情報ではないことや雰囲気や伝え切れないことがある。分かりやすく情報をまとめるため、関係のあるケアマネージャーや、訪看も含め連携して、情報共有しやすい仕組みをつくりたい。今年度に形にできればと考えている。

(高良委員長)

応援ブックやマップの情報を分かりやすくまとめるとは、例えば具体的にどのようなことか。

(河合委員)

新しい活動団体の情報不足や掲載内容の代表者の変更、もう一つ活動団体が増えていたことがあった。なかなか最新情報を入手するのは難しいが、そういったこともつながりを持って、変更があれば連絡をいただけるような関係性をつくりたい。

(高良委員長)

応援ブックは年に1回しか作れないので、情報のアップデートについても考えなければいけないのかもしれない。

今、説明いただいた内容について質問や意見等があればお願いしたい。

それでは、続いてひがし包括からお願いしたい。

(中島委員)

令和7年度の計画について

ひがし包括で毎月地域課題を上げて、それを基に今年度の計画を作成した。

1つ目に生活に係るちょっとした困りごとについて、こちらは急な怪我や病気で郵便を出しに行けないとか、電球を替えたいとか、ごみを出しに行きたいなどのちょっとした困りごととはとても多様で、そういった声が継続してある。そして具体的な解決策を見出すのは難しいが、地域の社会資源やその他の対応し得る情報を広く開拓していきたい。

2つ目の課題として、地域活動の継続困難な団体や閉鎖する団体への対応について、リーダーになる方が少ない、構成メンバーの高齢化で参加者が不足、新たな参加者が入らないこと等で活動が縮小しているという声がある。また、高齢になると自身の歩ける範囲で通える場を探す方が多く、活動出来る場所が減りさらに通いの場に参加出来る方が減るという悪循環を防ぎたい。

また、今年度から生活支援コーディネーターとして活動を始めたので、様々な団体に外向き顔を知ってもらい活動が難しくなる前に相談してもらえる関係づくりを行いたい。また、活動団体の運営支援を行う中で活動を深く知ることや、地域活動へ参加したい方へのマッチングなどの手助けをしたいと考える。地域とのつながりを持つ方が増えれば、生活のちょっとした困りごとについても地域での助け合いができ、根本の課題解決になると思う。

(高良委員長)

何か質問や意見があればお願いしたい。

では、各包括に共通で見られることもありそうなので、後ほど意見をいただく。

最後ににし包括からお願いしたい。

(久野委員)

令和7年度の地域課題を4つ上げている。

①スマホを学べる場が必要、②活動団体のリーダーの継承支援の必要性③体操以外の活動の場が少ない、④男性の方が参加しやすい社会資源が少ない、その4つが課題だと認識している。

また、令和7年度の活動目標として、情報発信の継続と、スマホの相談会はいつも好評なので、スマホサポーターや色々なボランティアの方たちの協力を得ながら、できるだけ色々な通いの場で開催したい。

またリーダー同士の交流の場の支援として、色々な活動団体のリーダーの意見を反映しながら活動団体の継続支援ができればと思う。

あと、さくら体操等以外の活動の場や、もう少し男性の方が気軽に参加できるような社会資源の発掘や、可能なら立ち上げ支援などを行っていきたい。

(高良委員長)

やはり男性の社会参加が難しい方が多く、昨年度も課題として検討してきた。また、歩いて行ける範囲に色々な活動の場があって、気楽に歩いて行ける通いの場があることがとても重要だと感じる。

何か質問や意見があればお願いしたい。

(千田委員)

スマホの相談会に出向く方の目的について伺いたい。

(高良委員長)

多分多様だと思うが、感覚としてどうか。

(久野委員)

スマホについて教えてもらいながら居場所を求めている方もいて、両方いると思う。

(千田委員)

以前と比べて色々な活動団体が増えているが、そこの参加者は固定化してるのか、それとも新しい人が多く参加しているのか。

(鈴木(寛)委員)

前原2丁目会でおしゃべりサロンをやっているが、そこに来る方は主催者の知り合いがほとんどで固定化してる。一応掲示板に新しい方を募集しているので、たまに新しい人が来るが継続しない。

(千田委員)

既存の通いの場に新しい人が来てもなじまない。なじませる工夫が要る。

(高良委員長)

割と固定的だという話が出たが、そうではない活動先が他にあれば教えてほしい。

(千田委員)

やはり新しい人を引き込まないと。また、自宅から出てこない人を引っ張り出すような工夫が必要だと思う。あと、どんなものがあれば男性の方が来ると思うか。

(高良委員長)

これについては昨年度検討した。ある程度目的が明確で役割があるもの、役割を持たせることで参加する意義や目的が出てくると記憶している。

(千田委員)

目的や役割を果たしたい人は言わなくても来るが、そうではない人が問題だと思う。

(高良委員長)

その自宅から出ない孤立している方をいかに早い段階から、地域につなげていくかが大きな課題だと思う。だからこそ市でも庁内連携をして、地域デビューできるような状況をつくるために話し合いを行った。また地域デビュー講演会を開催するのもその1つの方法になる。

ただ、これでもまだ十分とは言えないので、まだまだやっていかなければいけない。

(4) 検討事項

地域課題について

「地域課題について」事務局より資料5をもとに今まで取り組んできた概要説明を行った。

(高良委員長)

ここで一旦よろしいか。

ちなみに今の事務局の説明の中で「お互い様からつながる地域づくり」の目指すべき地域の在り方像もこの協議体で意見を出し合いこの言葉をつくった。

今の事務局の説明について質問等があればお願いしたい。

(千田委員)

社協やボラセンでも幾つか地域参加につながる講座を開催しているし、我々の団体も地域参加講座を開催している。この説明を聞いてニーズや目的を全部網羅した団体なので、我々のブースをお元気サミットに出展できたらと思った。

また、宮地楽器ホールで開催するイベントは、出かけやすいと思う。

(高良委員長)

お元気サミットは年に1回しかないなので、その他に地域参画講座を開催している団体や社協と色々連携して、その情報を必要としている方に広く周知する必要がある。

埴田委員も参加したのか。

(埴田委員)

参加した。お陰で色々なところにつながった。

地域とつながっていない人をどうやって引っ張り出すかは非常に難しいので、組織の中に入れようと後押ししてもなかなか参加しない。

自分から参加してこない人達をどう誘導するかが一番大事で、問題の解決には色々な組織が連携して横のつながりを作ることが必要になる。

昔から町内会があるが、今は引っ越してきても、町内会には参加したくない。さらには学校のPTAにすら参加したくない。PTAに参加しない人が他のボランティア活動をするかといったらない。

なのでもっと手前の段階から啓発していくことが大事だと思うし、既存の制度を活用して小金井全体で足踏みをそろえてやれば何か結果が出てくると思う。

(高良委員長)

つながっていくというのは本当に重要なことだと思う。

それぞれの地域包括支援センターの課題についていかに横のつながりをつくるのか、いかに活動を継続していける環境整備をしていくのかについて、資料5の裏面の第2層協議体の内容について事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

資料5をもとに第2層協議体について説明。

地域課題の検討については2層協議体が重要な鍵になる。今年度は2層協議体を有効に進めていくために、第1層協議体で検討することがあればと考えている。

(高良委員長)

今の説明について確認等があればお願いしたい。大丈夫か。

活動の継続が難しい、新たな担い手の不足等の課題について第2層協議体を活用していくことも1つの方法だと思う。にし圏域の久野委員がリーダー同士の交流会を検討している話があったが、これは第2層協議体を想定しているのか。

(久野委員)

そうだ。同じようなグループの方々が集まって、悩み事や解決策を出し合う場をつくるのも継続支援の1つになると思い、令和7年度の活動の目標に掲げた。

(高良委員長)

もう既に他の圏域でそのような活動をしているが、実際に活動している千田委員や埴田委員は他の団体とのつながりを持つ意味合いや、意義を感じているか、また活動を継続する上でどのような支援が必要かを教えてください。

また、若い人達をどう巻き込んで担い手になってもらうか、そのための工夫について、この点がとくに難しいことだと思う。埴田委員、活動を今後継続しようと思ったら、どういう工夫やどういう支援が欲しいか。

(埴田委員)

声掛けや、声掛けの環境を変えていく必要がある。それにはやはり町会やPTAとか、そういう場でのコミュニケーションが大事だと思う。今はそれがスマホで済んでしまう部分があるので、その辺は昭和時代のいい部分を引き継ぐ必要性がある。

(高良委員長)

そうするとできる限り早い段階から町会とかに入るとか、コミュニケーションで何らかの形でつながりをつくり、こういった活動につなげる流れをつくる必要があると思う。

理想的には生活支援コーディネーターや地域包括支援センターの方がそういう方々とつながって、その人たちの状況や関心事に応じて、必要な活動への同行支援等をする地域活動ができるかもしれない。ただ、現実的に難しいので民生委員の方々と連携してできる限りつながりをつくることが出来ないかが多分一番大きな検討事項だと思う。

(鈴木(寛)委員)

問題にしている方は孤立している方で、民生委員でもなかなか情報がつかめない。

(鈴木(幸)委員)

高齢の方でサロン等に出てこれない80歳、90歳の方や、病気を持って寂しい思いをしている方たちのために何かしたいと思う。

(高良委員長)

自分でやりたいことが考えられない方々を、地域の興味あるものにつなげるには行きやすい活動先、と多様な関心に対応できる活動先が地域に多くあったほうがいい。ちょっと気が向いたときに行こうと思えるし、周りの人たちも誘って行こうと思える環境を整えること。それと孤立している方たちがどこにいて、その方たちにどう働きかけて、その後のつながりをどう作っていくかの個人への対応の両輪だと思う。これは常に大きな課題なので次回に検討していきたい。

(鈴木(寛)委員)

ちょっとしたきっかけを与えれば救える人たちをターゲットにしてはどうか。

(高良委員長)

そのつもりだ。まずニーズ調査である程度の結果は出ているので、介護保険の事前のニーズ調査をしており、どのくらいの方が孤立の状態にあるのかがその調査の中である程度見える。

一方で、この協議体は地域をつくることがポイントになるので、先ほど話した環境整備と個人に対しての支援の両輪のうち、どちらかという環境整備の方を特に行うことになる。ただ、これは分離できるものではないので、環境整備を続けていきながら、いかに色々な方たちにつながれる環境をつくるのか、地域活動の継続支援等を課題として次回の協議体では検討していきたい。

3 その他

事務局より次回協議体の開催予定の案内の説明を行う

4 閉会